



【会長のご挨拶】



押上一丁目仲町会
町会長 多賀康之

東京都では四月二十五日から五月二十二日にかけてのリバウンド警戒期間を経て、政府も経済活動の活性化にテコ入れを始めております。

四月からの行事を振り返りますと、四月六日から十五日にかけて全国春の交通安全運動があり、当町会もニッポンレンタカー前に幟と横断幕を設置して参加しました。ニッポンレンタカー前の信号で横断する際は、踏切の方から右折してくる自動車が完全に停止してくれるのを運転手の目を見て確認してから渡るようにいたしました。また、その交差点は横断歩道側が青信号になっていても、T字路なので自転車信号を無視して突っ込んでくる場合がありますので注意してください。

四月十五日には飛木稲荷神社のぼんでん祭がありました。ぼんでんとは、田植え前の田んぼの四隅に立てる大きな御幣のことで、五穀豊穡、商売繁盛、家内安全を祈願するお祭りです。

五月三十日のゴミゼロデーにちなみ、五月二十九日に墨田区クリーンキャンペーンが開催され、当町会から大井部長を中心には十八名の方が参加し、町内を清掃して頂きました。山本区長から御礼の言葉をいただいています。

押上一丁目仲町会広報部

編集責任者 山本 勝信

第九十三号

令和四年六月三十日

六月に入り、去る六月十二日に本所消防団消防操法審査会があり、審査の様子を見てまいりました。わが町会が所属している第八分団が久しぶりに準優勝という好成績を収めうれしく感じたと共に、統制の取れた日常の訓練によってこの町が守られているのだと改めて感じました。

前号でもお知らせいたしましたのが、今年の飛木稲荷神社のお祭りは、四年に一度の神幸大祭に当たり、九月八日から十一日の予定で開催されます。よほどのことがない限り、神酒所を建設しお神輿、山車を飾り、十日の鳳輦の渡御を行う予定であります。お神輿の「氏子町会勢揃い」はまだどうするかは未定です。

この記事を書いている六月二十四日現在で、下降気味であったコロナの新規感染者数がまた増加傾向になっております。それに加えてオーストラリアで流行っているインフルエンザが日本にも入ってきている可能性があります。ウィルスは完全に撲滅することはかなり難しく、上手に付き合っていくしか方法がないと思われます。

皆さん、三回目、四回目のコロナワクチンはお済でしょうか？前の接種から空ける期間がないという方もいらっしゃると思いますが、感染しにくくなる、重症化しにくくなるといった効果はあるとのこと。強制力はないですが、検討をお願いします。また、引き続き、「手洗い・

うがい・消毒・マスク」「三密を避ける」などコロナ対策を十分にとりながら行動することが肝要かと思えます。

朝のこない夜はない。以前のように活気ある社会を取り戻せるのはもう少しであると考えています。厳しい状況が続きますが、明るく元気に行動して、病魔を吹き飛ばしていきましょう。



本所消防団消防操法審査会での訓練の様子



消防操法審査会の模様（第八分団も参加）

【総務部長】

大橋 祥子

梅雨の季節になりました。気温の変化が激しいこのごろ皆様には体調に注意してお過ごし下さい。

新型コロナウイルスワクチン追加接種（4回目）の時期になりました。60歳以上の方に限られますが、どうぞ接種の検討をお願いします。

先日、還付金詐欺に友人がだまされるところでした。

墨田区役所の職員を名のり電話があり「医療費の還付金が出ているので指定のATMへ行って下さい」と数回の電話がありました。

ATMへ行く途中不信に思い警察に今までのいきさつを話したら、すぐ還付金詐欺だと解りました。被害が無くよかったものの言葉巧みに誘導してくるので信用しそうになるそうです。

皆様も少しでも怪しいなと思ったらすぐ警察に連絡して下さい。

昨年度は地区部長の皆様には配布物等お忙しい中大変お世話になりました。ありがとうございました。

【しらとり子供会】

笠松 貴美子

本年度、子供会会長を務めさせていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度は新たに1年生1人が加入し計6人となりました。登校班では押上一丁目町会の子どもたちと一緒に元気に学校へ通っています。

アフターコロナといっても、まだまだ子どもたちにとっては窮屈な生活が続いていますが、順応力の高い子たちは今の時代に適応し頑張っています。

いるところ。登下校時、業平小学校の青い帽子の子どもたちを見かけた折には『おはよう』『いつてらっしゃい』『おかえり』の掛けをあげてください。子どもたちの成長に地域の支えは不可欠であり、子どもたちにも地域に見守られていると感じてほしいです。高いビルが建ち、押上の街並みも変わってきましたが、下町の良いところは残し、子どもたちに受け継いでいってほしいです。



【クリーンキャンペーン】

大井 仁

すみだクリーンキャンペーンが五月二十九日に開催されました。前回開催されたのが二〇一九年でしたので三年ぶりです。

各町会がそれぞれ手分けをして掃除が始まり町が綺麗になっていきました。

仲町会も朝早くから婦人会やOSTの方たちに混ざって子供もハウキ





ゴミ拾い回収してクリーンな街を実現



とちりと리를持つて町内のゴミを集めたので、道路や町内にゴミがなくなり、清々しい気持ちになりました。

クリーンキャンペーンの日だけではなく、いつも家のまわりを掃除してれば町はいつもピカピカですね。

町会のみなさんクリーンキャンペーンにご協力ありがとうございます。



ゴミ拾い回収し、掃き掃除を行うことによりてクリーンな街路にしています

【押上界隈の歴史あれこれ】

三二 墨田の隠れた偉人

助産師の母 村松志保子

横井 正男

「村松志保子助産師顕彰会」が「助産師の母」と称えている村松志保子（二八五六―一九三二）を紹介します。

村松志保子は東洋医学医師・教育者として、明治一五年（一八八二）、産婆（助産師）学校を設立しました。

その場所（横網二一七、ろうけん隅田「秋光園」の地）に「助産師教育発祥の地」と題した説明板が設置されており、次の様な説明があります。



村松志保子の胸像（説明板より）

『村松志保子の自律的・博愛的近代助産師活動と助産師教育発祥の地』

明治時代に女医から産婆（助産師）になり、明治・大正時代に博愛精神に

基づき、助産活動をした先駆的助産師村松志保子は、安政三年（一八五六）

生（大正十一年（一九三二）没

明治十四年、この地に安生堂医院を開設、更に女性の地位向上のため、明治十五年、淑女館と安生堂産婆学校を設立し、新しい教養豊かな産婆（助産師）がこの地で育成された。

志保子の博愛精神は、貧富の分け隔てなく当時の多くの母子を助け、その活動は、大正十二年九月一日の関東大震災まで、続けられた。

ここに、「志保子の崇高な精神」「高邁な志」に基づく活動を末永く称えんと共に、助産師自らが設立した助産師教育と博愛的助産師活動発祥の地に、将来にわたり全世界の全ての母子とその家族の健康と幸福を願い、更に世界平和の実現への助産師の祈りの発信基地なることを記念して

村松志保子助産師顕彰会建立
平成十七年三月八日



助産師教育発祥地の説明板（氏撮影）

志保子の父、村松玄庵は沼田藩の御殿医です。母、和歌子は沼田藩家老中村官兵衛の長女です。志保子は安政三年（一八五〇）、沼田藩藩邸（港区）で、この両親の長女として生まれました。兄が三人いましたが、いずれも早世していました。志保子は亡き兄たちに代わり、幼少時より儒学などの書で学問に励み、一四歳か

らは御殿医の父から漢方医学・鍼を学び女医を目指しました。

そんな中、妹が産褥熱で死亡してしまいました。また、出産は命がけで、時には母親も死亡することもあり、産婆の重要性を痛感し、志保子は助産師を志しました。

志保子は、父（沼田藩の御殿医）母（実家の父は沼田藩の家老）が共にお世話になっていた沼田藩取後の藩主土岐頼知の妹の教育や土岐家一族の病氣看護に尽力しました。藩主はそれのお礼として、所有していた墨田区横網の土地二千坪余りの内、約半分の千坪の土地を志保子に与えました。

志保子はこの地に、明治一四年（一八八二）安生堂医院開設、次いで翌一五年（一八八二）には女子教育のための女学校「淑女館」を設立し、女性の勉学を奨励、女性の地位向上を図りました。更に、安生堂産婆学校を設立多くの助産師（産婆）育成に尽力しました。

安生堂医院では、貧困妊婦のために無料の施療入院施設を設け、貧富を問わず多くの母子を平等に助成し、保健福祉の慈善活動を展開しました。明治二四年（一八九二）には、この活動に對し北白川宮・小松宮両妃殿下、ロシア皇帝ニコラス二世からの支援も得ています。

志保子は、道なかばの大正一一年（一九二二）一月二六日に六五歳で亡くなりました。翌年発生した関東大震災により、全てを焼失したためか、その後志保子の存在はすっかり忘れ去られていました。

近年になり墨田区の文化財調査により、「助産師の母 村松志保子」の存在が明らかになりました。

【編集後記】

6月21日は一年で一番、日中の時間が長い夏至だが、この時期は梅雨で晴天が少なく、夏至を実感する事が少ない。

日没時刻は6月29日が午後7時01分16秒で一番遅い。6月21日は午後7時00分21秒だそう。そして日没時刻が夏至とズレるのは、日の出時刻が一番早いのが6月13日で午前4時24分43秒だからだ。夏至の日の出は午前4時25分37秒である。

夏が近付き、朝の気温も結構高いので、晴天だといひ早く目が覚めるようになる。しかし、雨で鬱陶しく感じる時期でもあり、紫陽花だけが喜ぶように咲き誇っている。派手な色の紫陽花はシールボルトなどが持ち出し、ヨーロッパで品種改良した西洋紫陽花で、目立たない地味な紫陽花が日本原産の紫陽花だ。しかも花だと思っている部分はガクで、本当の花は中心の小さな突起のような部分だ。

現実には夏至も紫陽花もなんだか残念な話だが、身の回りにも呆れるような残念な事が次々と発覚している。

今年の町会総会は報告事項が多いので、なるべく多くの会員の皆さんが出席出来る方法を模索している最中なのだが、仲間内だけが集まって、「出席しない方が悪い」という言い訳で自分達に都合な事だけ行う体質が染み付いたようで驚いている

【ご報告】

長年に亘り広報誌に俳句を投稿して頂いていた冬室勝男様のご逝去されました。ご冥福をお祈り申し上げると共に、ご報告致します。

